

第8章 活用

第1節 活用の基本的な考え方

史跡大塚山古墳群の保存活用を検討する上で前提となるのが、河合町が目指す将来都市像の実現に向けた上位計画である『河合愛 AI 構想』の施策「史跡や文化財の整備と活用」の推進である。

その中では、“河合愛”を醸成させることを目指し、住民をはじめ町外の方々にも河合町の浪漫を感じてもらえるよう河合町の歴史についての情報発信に努め、観光施策にも発展させるとしている。

そして、河合町の教育の方向性を示した『河合町教育大綱－河合町教育振興計画－』においても、「文化財保存活用基本計画の見直し」「文化財保護意識醸成のための普及活動の充実」「文化財の調査研究の深化とその成果に基づく歴史的・学術的価値の後世への継承」「文化財の保護と郷土の歴史の記録」を進めるとしている。

本計画では、上位計画を基本として史跡大塚山古墳群の活用方法を検討する。

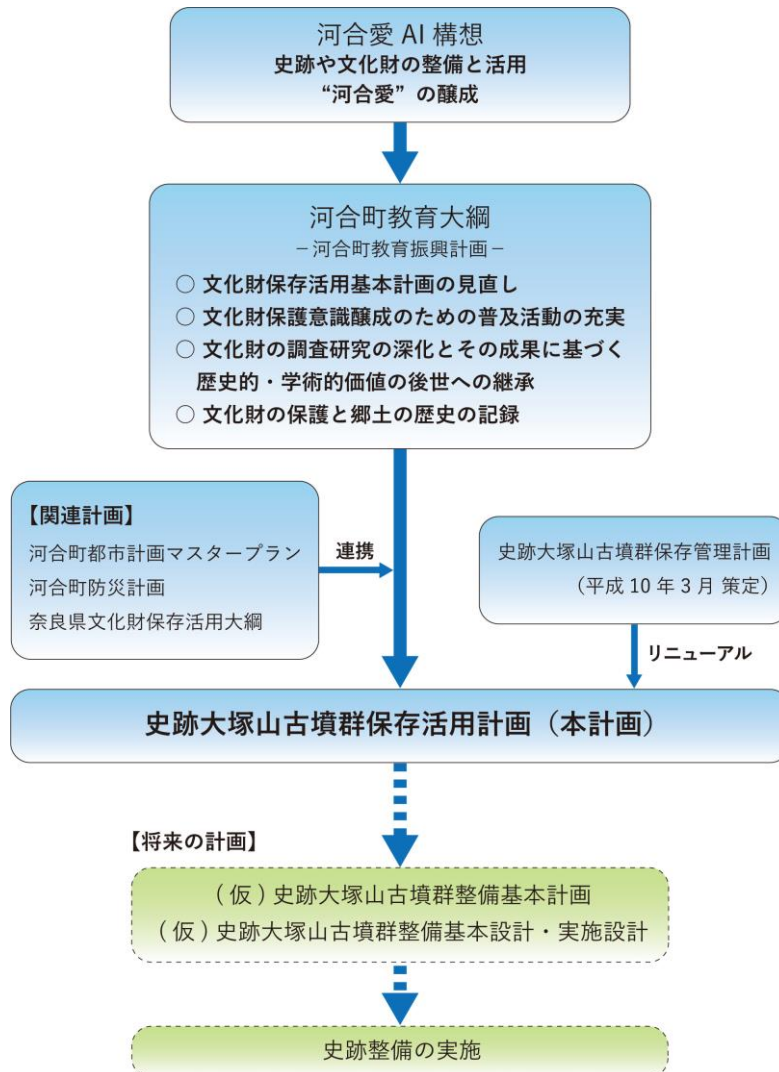


図45 史跡大塚山古墳群保存活用計画の位置付け

第2節 活用の方向性

大塚山古墳群を通じて地域に対する郷土愛の醸成、文化財の保存・活用へのきっかけ作りに向けて、住民や各種団体と連携を図りながら、大塚山古墳群の本質的価値を構成する要素をはじめとした町内に残る文化財、またそれらを取り巻く自然環境や景観の中で、体験や学習ができるような機会や空間の確保・充実に取り組む。

主に学校教育や生涯学習において、大塚山古墳群をはじめとする町内の文化財の活用を進める。また、関係機関や学識経験者と連携し、大塚山古墳群の調査研究及びその成果の公開活用に努める。そしてその調査研究の成果や史跡整備の状況を踏まえて、史跡の保存管理を行いつつ、地域住民や行政、各種団体が主体となって大塚山古墳群を活かした地域おこしの取り組みを行う。

加えて本町域だけではなく、北葛城郡をはじめとした広域的な広がりの中で、文化財を通じたネットワークの構築や強化を図っていく。

活用に関する取り組みについては適切かつ効果的な方法を用いて発信する。

第3節 活用の方法

(1) 学校教育における史跡の活用

町内の小・中学校において、大塚山古墳群を体験的に学習する機会の確保・充実に努めながら、地域の歴史文化を学び、郷土を深く知って愛する心を育てる。具体的には古墳群の現地見学や、各古墳から出土した遺物を実際に触れて学ぶ出前授業など、実際に古墳を見て触れて体感してもらう活用が実施できるよう検討を行う。

(2) 生涯学習（社会教育）における史跡の活用

一般住民や町内の子どもを対象に、これまで実施してきた講座や講演会、河合町観光ボランティアガイドの会主催のウォーキングイベントに加え、大塚山古墳で今後実施予定の発掘調査に合わせた、体験発掘等の歴史体験の開催を図る。

こうした取り組みについては、SNS等を利用した町内外への情報発信を積極的に図り、町外からの参加も受け入れ推進をしていく。



図 46 ウォーキングイベント

(3) 大塚山古墳群を活かした観光・地域おこし

大塚山古墳群を守り活かしていくことで、大塚山古墳群の価値を維持し向上させていくための活用を目指していく。現在町内で実施している河合町観光ボランティアガイドの会による観光ボランティアや、本町が企画した御墳印帖プロジェクトを継続して行っていくとともに、町内へ観光客が来訪してもらえるような企画や運営体制の整備に取り組む。



図 47 「河合町史跡 & 古墳巡り『御墳印帖』プロジェクト!」リーフレットとオリジナルバッグ

(4) 大学等高等教育機関・研究機関との連携

大学等の高等教育機関・研究機関及び学識経験者と連携し、大塚山古墳群内の各古墳、特に未調査部分の多い大塚山古墳の調査・研究を継続的に進めるとともに、その成果を学校教育や生涯学習、さらには観光・地域おこしに活用する。

(5) 周辺地域との連携

河合町が立地する馬見丘陵周辺の自治体（河合町及び王寺町・上牧町・広陵町・大和高田市・香芝市）との地域連携により、展示公開、講演会、見学会等のイベントを実施するなど、大塚山古墳群と関連する遺跡や公共施設とのネットワークを構築することで、相互に史跡の利用促進と地域活性化を図る。



図 48 「河合町史跡&古墳巡り『御墳印帖』プロジェクト!」の各御墳印